

ならしん景気動向調査レポート

(第9回) 2016年 7月期

奈良信用金庫 総合企画部 奈良県大和郡山市南郡山町529-6

TEL (0743-54-3116) URL <http://www.narashin.co.jp>

1. 調査期間…… 平成28年7月
2. 調査時点…… 平成28年7月 (前回調査 平成28年4月)
3. 調査対象…… 当金庫取引事業先
※対象先は任意に選定(毎年一部見直し)
4. 調査方法…… 往訪面談・電話等によるヒアリング調査
5. 回答状況

	対象先数	回答先数	回答率
製造業	39	39	100.0%
不動産業	17	17	100.0%
サービス業	14	14	100.0%
卸売・小売業	31	31	100.0%
建設業	14	14	100.0%
運輸業	9	9	100.0%
医療・福祉	11	11	100.0%
全業種合計	135	135	100.0%

当金庫でお取引をいただいている事業先から業種に偏りのないよう135社を任意に選定させていただき、最近の業況・資金繰り等、景気動向に関連するアンケート項目の聞き取りについて、ご協力をお願いいたしました。
うち、135社よりご回答を賜りました。

今回調査結果一覧

平成28年7月

全業種

	対象先数	回答先数	回答率	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI
				業況	売上金額	収益	資金繰り	前年同期比売上	前年同期比収益	残業時間	人材
製造業	39	39	100.0%	17.9%	12.8%	12.8%	2.6%	5.1%	17.9%	15.4%	2.6%
不動産業	17	17	100.0%	23.5%	17.6%	0.0%	11.8%	-5.9%	0.0%	17.6%	29.4%
サービス業	14	14	100.0%	42.9%	42.9%	50.0%	50.0%	35.7%	28.6%	-7.1%	-14.3%
卸売・小売業	31	31	100.0%	-19.4%	-12.9%	-22.6%	0.0%	-3.2%	-6.5%	-6.5%	3.2%
建設業	14	14	100.0%	14.3%	14.3%	7.1%	28.6%	14.3%	14.3%	-14.3%	0.0%
運輸業	9	9	100.0%	55.6%	44.4%	55.6%	22.2%	44.4%	44.4%	11.1%	-11.1%
医療・福祉	11	11	100.0%	18.2%	9.1%	27.3%	27.3%	54.5%	54.5%	9.1%	-18.2%
全業種合計	135	135	100.0%	14.8%	12.6%	10.4%	14.1%	12.6%	15.6%	4.4%	1.5%

	借入実施		設備投資実施			
	あり	なし	あり	なし		
製造業	26	11	13	24		
不動産業	9	6	2	13		
サービス業	7	6	7	7		
卸売・小売業	15	12	11	16		
建設業	10	4	5	9		
運輸業	6	3	6	3		
医療・福祉	9	1	4	6		
全業種合計	82	43	48	78		

「DI」について

「diffusion index (ディフュージョン・インデックス)」の略で、景気・業況などの動きを示すものです。このレポートでは、お客さまからいただいたご回答のうち「良い」「やや良い」の割合から、「やや悪い」「悪い」の割合を引いたものを記載しています。

(例) 業況について ご回答 (5社)

A社	<u>(1) 良い</u>	(2) やや良い	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い
B社	(1) 良い	<u>(2) やや良い</u>	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い
C社	(1) 良い	(2) やや良い	<u>(3) 普通</u>	(4) やや悪い	(5) 悪い
D社	(1) 良い	(2) やや良い	(3) 普通	<u>(4) やや悪い</u>	(5) 悪い
E社	<u>(1) 良い</u>	(2) やや良い	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い

$$DI = \left[\frac{((\text{良い} \times 2 + \text{やや良い} \times 1) \div 5社)}{[60.0\%]} - \frac{((\text{やや悪い} \times 1 + \text{悪い} \times 0) \div 5社)}{[20.0\%]} \right] = 40.0\%$$

全体
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
18.5%	14.8%	-3.7%	9.2%	12.6%	3.4%	5.9%	10.4%	4.5%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
21.0%	14.1%	-6.9%	12.6%	12.6%	0.0%	10.9%	15.6%	4.7%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
4.2%	4.4%	0.2%	2.5%	1.5%	-1.0%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
67.3%	65.6%	-1.7%	31.9%	38.1%	6.2%			

■概況 ※()内はDI値

全業種合計の業況判断DIは前回調査時より3.7ポイント下降したものの、良化傾向(14.8%)を継続している。良化幅を続伸した業種は不動産業とサービス業、運輸業の3業種のみ。医療・福祉については、好調な業況を継続しつつも、前回比27.3ポイント大幅に下降し、先行きが楽観視できない状況となっている。

一方、売上については不動産業と建設業、運輸業の3業種で変化幅を下方へと進めたものの、依然として良化傾向を継続している。全業種合計の売上DIは前回比3.4ポイント増加し、良化傾向を継続。依然として悪化傾向を継続している卸売・小売業についても変化幅を前回比8.5ポイント上昇し、改善の方向に向った。

収益面については全業種合計で前回比4.5ポイント上昇し良化傾向を継続。特に、サービス業においては材料価格の改善に伴い良化幅を37.5ポイントと大幅に上方へと続伸し、DIは50.0%となった。収益面で良化幅を下方へと向けた業種は不動産業と運輸業のみ。運輸業は良化傾向(55.6%)を継続しているものの、不動産業については、DIを横ばい状態(0.0%)とし好調な業況に陰りをうかがわせる結果となった。なお、7~9月の収益見通しでは、半数以上が「普通」と予想しており、現状維持を想定しているが、「やや良い」以上を回答した企業が減少、「やや悪い」以下と回答した企業が増加し、先行きを不安視する状況となった。

国内景気はマイナス金利ショックの影響が徐々に和らぎ、財政の前倒し支出や金融政策の両面での取組み効果が期待される中、海外経済の懸念材料も多く、一進一退の状況が続くものと見込まれる。

なお、借入によって資金調達を行ったのは全体の65.6%となり、前回比1.7ポイント減少した。

全業種合計の前年同期比売上は全体的に前回調査時と変わりなく良化傾向を継続。前年同期比の収益についても、全体的に増加(15.6%)傾向を継続し、前回比では4.7ポイント増加している。

なお、設備投資を行ったのは全体の38.1%であり、前回比6.2ポイント増加した。

人材不足はどの業種でも最重要課題として取り組みを継続しており、前回比1.0ポイント下降し、改善傾向(1.5%)を維持。医療・福祉業については、前回比45.5ポイントと大幅な下降により悪化傾向(-18.2%)に転じた。

同業者競争の激化による販路拡大と、人手不足による人材確保は慢性的な経営課題として重要視されているが、料金調整や経費節減といったコストを抑えて収益貢献する対策も重要視されてきている。

■特別調査	「人材過不足感と人材戦略」および、今後3ヶ月(7-9月)の業績見込み
人手の過不足状況	「やや過多」4社、「適正」85社、「やや不足」35社、「不足」6社
団塊世代引退への影響対応	「中途・経験者採用」41社、「対応はとらない」35社、「技能継承に注力」26社、「定年延長・再雇用」21社、「新卒採用」19社
採用したい人材	「営業・販売」80社、「企画・管理」14社、「研究・開発」12社 「職能・技能は問わない」9社、「財務・経理」8社、「語学力」3社、「IT関連技能」2社
業績(7-9月見込み)	「良い」4社、「やや良い」20社、「普通」92社、「やや悪い」17社、「悪い」1社
売上額(7-9月見込み)	「良い」4社、「やや良い」25社、「普通」87社、「やや悪い」17社、「悪い」1社
収益(7-9月見込み)	「良い」4社、「やや良い」19社、「普通」95社、「やや悪い」15社、「悪い」1社

業種別の概況・経営上の問題点・当面の対策・その他特別に調査した項目については、次ページ以降に内容を記載しております。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
23.5%	17.9%	-5.6%	8.8%	12.8%	4.0%	11.8%	12.8%	1.0%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
17.6%	2.6%	-15.0%	14.7%	5.1%	-9.6%	17.6%	17.9%	0.3%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
0.0%	15.4%	15.4%	0.0%	2.6%	2.6%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
75.8%	70.3%	-5.5%	39.4%	35.1%	-4.3%			

■概況 ※()内はDI値

製造業全体の業況判断DIは前回調査時に比べて5.6ポイント下降したものの、依然として良化の方向(17.9%)を維持している。

一方で、売上金額は前回は4.0ポイント上昇し、依然として良化傾向(12.8%)を継続。

それに伴い、収益も前回は1.0ポイント小幅に上昇し、売上同様に良化傾向(12.8%)を継続している。

業種全体では売上・収益両面で依然として良化傾向を継続しているものの、業況DIは前回は5.6ポイント下降しており、先行きを楽観視はしていない。

販売価格については前回は8.8ポイント下降し、DIは横ばい状態となった。

また、資金繰りについては、良化傾向(2.6%)を継続しているものの、前回は15.0ポイントと大幅に下降した。なお、借入によって資金調達を行ったのは全体の70.3%となっており、前回は5.5ポイント下降した。

前年同期比売上は増加傾向(5.1%)を維持しながらも、前回は9.6ポイント減少。同収益については前回は0.3ポイントと微増ながら上昇して増加傾向(17.9%)を継続。残業時間は前回は15.4ポイント上昇し改善(15.4%)傾向に転じた。人材についても、前回より2.6ポイント上昇し、改善(2.6%)に転じた。設備投資を行った先は全体の35.1%で、前回より4.3ポイント減少した。

■経営上の問題点

人手不足が若干解消したこともあり、今回調査では「売上停滞・減少」を問題視している企業がトップとなった。次点で「同業者競争の激化」を挙げる企業が全体の31%となり、同業者競争への対応が売上の停滞・減少に影響することを示唆する結果となった。

■当面の対策

依然、対策としては「販路拡大」が最も多く29社で重点施策とされている。同業者競争に打ち勝つ「技術力・営業力強化」に加えて、売上停滞・減少をカバーするための「経費節減」が12社で主な重点対策として挙げられた。

■特別調査	「人材過不足感と人材戦略」および、今後3ヶ月(7-9月)の業績見込み
人手の過不足状況	「やや過多」2社、「適正」29社、「やや不足」7社、「不足」1社
団塊世代引退への影響対応	「技能継承に注力」16社、「定年延長・再雇用」9社、「中途・経験者採用」8社、「新卒採用」6社
採用したい人材	「営業・販売」25社、「研究・開発」11社、「企画・管理」3社、「財務・経理」2社 「語学力」2社、「IT関連技能」1社、「職能・技能は問わない」1社
業績(7-9月見込み)	「やや良い」9社、「普通」25社、「やや悪い」5社
売上額(7-9月見込み)	「やや良い」11社、「普通」23社、「やや悪い」5社
収益(7-9月見込み)	「やや良い」9社、「普通」26社、「やや悪い」4社

業況は、前回調査時より5.6ポイント下降したものの、依然として良化傾向を維持しております。一方で、売上・収益については良化幅を若干ながらも増加し、良化傾向を継続しております。ただ、販売価格については前回は大幅に変化幅を減少し横ばい状態となり、激しい同業者間競争による価格帯への影響及びそれに伴う売上停滞・減少が示唆される結果となりました。

なお、今後の業績・売上額・収益の各見込み(7月~9月)については「良い」と回答した企業は無く、「やや良い」と回答した先も減少し、好調な業況も、先行きを楽観視する姿勢はみられなくなっております。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
18.8%	23.5%	4.7%	18.8%	17.6%	-1.2%	6.3%	0.0%	-6.3%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
25.0%	11.8%	-13.2%	0.0%	-5.9%	-5.9%	0.0%	0.0%	0.0%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
12.5%	17.6%	5.1%	25.0%	29.4%	4.4%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
62.5%	60.0%	-2.5%	18.8%	13.3%	-5.5%			

■概況 ※()内はDI値

不動産業全体の業況判断DIは前回比4.7ポイント上昇し、良化傾向(23.5%)を継続。売上金額については前回比1.2ポイント減少したものの、良化傾向(17.6%)を維持した。収益面では、前回比6.3ポイント減少し、良化傾向から横ばい状態(0.0%)となった。

また、資金繰りについても良化傾向(11.8%)を維持しているものの、前回比13.2ポイント大幅に下降した。なお、借入によって資金調達を行った先は全体の60.0%であり、前回比2.5ポイント減少した。

一方で、売上における前年同期比では、前回、前々回と横ばい状態であったが、前回比5.9ポイント減少し、悪化傾向(-5.9%)に転じた。同収益については、前回比状況は変わらず、横ばい状態を継続。残業時間は前回比5.1ポイント改善し、良化傾向(17.6%)を継続した。人材不足については、前回調査時よりは4.4ポイント改善し、依然として改善傾向(29.4%)を維持している。設備投資は前回比5.5ポイント減少し、13.3%の先にとどまっている。

■経営上の問題点

経営課題としては、前回次点だった「同業者競争の激化」が8社と最も多く、次点で「商圈人口の減少」、続いて「在庫調整」が経営上の問題点として挙げられた。「在庫調整」については、前回比倍以上の企業が問題視しており、不動産売れ行きの動きの鈍化を示唆する結果となった。

■当面の対策

「販路拡大」に注力する企業が9社、次点で「情報力の強化」が8社、「宣伝・広告の強化」が5社となり、商圈人口が減少傾向を深化させていく中、「販路拡大」と同業者に打ち勝つ為の人的努力を強化していく姿勢がみられた。

■特別調査	「人材過不足感と人材戦略」および、今後3ヶ月(7-9月)の業績見込み
人手の過不足状況	「やや過多」2社、「適正」14社
団塊世代引退への影響対応	「対応はとらない」10社、「中途・経験者採用」3社、「技能継承に注力」2社、「定年延長・再雇用」1社
採用したい人材	「営業・販売」12社、「財務・経理」1社
業績(7-9月見込み)	「良い」1社、「やや良い」2社、「普通」11社、「やや悪い」2社
売上額(7-9月見込み)	「良い」1社、「やや良い」2社、「普通」11社、「やや悪い」2社
収益(7-9月見込み)	「良い」1社、「やや良い」1社、「普通」11社、「やや悪い」3社

業況DIは前回より変化幅を拡大し、依然として良化傾向を継続しております。しかしながら、売上・収益については、若干ながらも変化幅は下降し、好調さに陰りが伺える結果となりました。消費税増税延期により駆け込み需要が後退、また商圈人口が減少し供給する先自体が減少する中で、いかにして販路を拡大させるかが重要な課題となってきております。業績・売上額・収益の見込みは大半が「普通」となっており、前回に比べて「やや良い」と回答した企業が減少、一方で前回は無かった「やや悪い」と回答した企業もあり、先行きを不安視する結果となりました。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
25.0%	42.9%	17.9%	37.5%	42.9%	5.4%	12.5%	50.0%	37.5%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
37.5%	50.0%	12.5%	62.5%	35.7%	-26.8%	50.0%	28.6%	-21.4%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
12.5%	-7.1%	-19.6%	-12.5%	-14.3%	-1.8%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
75.0%	53.8%	-21.2%	37.5%	50.0%	12.5%			

■概況 ※()内はDI値

医療・福祉を除くサービス業の業況判断DIは、良化幅を大きく上昇させ、依然として良化傾向(42.9%)を継続している。売上金額についても、前回比5.4ポイント上昇し、引続き増加傾向(42.9%)を継続。また、材料価格DIは前回比33.9ポイント大幅に上昇し、良化傾向(21.4%)に転じた。収益についても、前回比37.5ポイントと大幅に上昇し、良化傾向(50.0%)を継続した。

また、借入によって資金調達を行った先は全体の53.8%であり、前回比21.2ポイント減少した。

一方で、前年同期比売上は前回比26.8ポイント減少したものの、依然として増加傾向(35.7%)を継続。同収益についても前回比21.4ポイント減少したものの、良化傾向(28.6%)は維持した。

残業時間は前回比19.6ポイント大幅に下降し悪化傾向(-7.1%)に転じ、人材は前回比1.8ポイント下降し依然不足(-14.3%)傾向。設備投資を行った先は全体の50%で、前回調査時より12.5ポイント増加した。

■経営上の問題点

好調な業況からか「人手不足」が6社でトップ。次点で「同業者競争の激化」「経費の増加」が5社となった。人手不足解消に向けた人件費の増加も3社と問題視されるようになり、人が主体の業種だけに、人手確保とそれに伴う経費の増加の兼ね合いが難しい状況となっている。

■当面の対策

「人材確保」を経営施策として挙げた企業が7社、次点で「経費節減」が5社、「技術力・営業路力強化」が4社と続き、慢性的な人手不足に加えて獲得した人材の育成についても重点的に取組む姿勢がみられた。

■特別調査	「人材過不足感と人材戦略」および、今後3ヶ月(7-9月)の業績見込み
人手の過不足状況	「適正」5社、「やや不足」8社、「不足」1社
団塊世代引退への影響対応	「中途・経験者採用」7社、「新卒採用」5社、「対応はとらない」2社
採用したい人材	「営業・販売」7社、「職能・技能は問わない」4社、「企画・管理」2社、 「語学力」1社、「IT関連技能」1社
業績(7-9月見込み)	「やや良い」1社、「普通」12社、「やや悪い」1社
売上額(7-9月見込み)	「やや良い」2社、「普通」11社、「やや悪い」1社
収益(7-9月見込み)	「普通」14社

業況、売上の状況ともに引き続き好調を維持しております。材料価格が良化傾向に転じたこともあり、収益については、前回比より大幅に変化幅を上方に拡大し好調を継続する結果となりました。しかしながら、前年同期に対する売上・収益DIはともに変化幅を大幅に下方へと引き下げる結果となりました。業況が好調を示しているときは慢性的な人手不足を解消しようとする動きが強いながらも、依然として人材確保とコストとの兼ね合いが難しい状況が続いております。一方、業績・売上額・収益の見込みは大半が「普通」となっており、好調な業況ながらも、先行きを楽観視する企業は少ない結果となりました。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-14.3%	-19.4%	-5.1%	-21.4%	-12.9%	8.5%	-25.0%	-22.6%	2.4%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
7.1%	0.0%	-7.1%	0.0%	-3.2%	-3.2%	-14.3%	-6.5%	7.8%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
7.1%	-6.5%	-13.6%	-3.6%	3.2%	6.8%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
52.0%	55.6%	3.6%	24.0%	40.7%	16.7%			

■概況 ※()内はDI値

卸売・小売業全体の業況判断DIは前回は5.1ポイント下降し、依然として悪化傾向(-19.4%)を継続した。一方で売上に関しては、悪化傾向(-12.9%)を継続しているものの、前回は8.5ポイント上昇した。また、収益についても前回は2.4ポイント上昇したものの依然として悪化傾向(-22.6%)を継続している。仕入れ価格についても、前回は12.1ポイント上昇したものの、悪化傾向(-12.9%)を継続した。

在庫過多は前回は0.7ポイントと若干ながら上昇したものの、悪化傾向(-6.5%)を維持。一方、販売価格については前回は9ポイント下降し、悪化傾向(-16.1%)を継続している。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の55.6%となり、前回は3.6ポイント上昇した。

前年同期比売上は前回は3.2ポイント下降し、横ばい状態から悪化傾向(-3.2%)に転じた。同収益については前回は7.8ポイント上昇したものの、悪化傾向(-6.5%)を継続した。残業時間は前回は13.6ポイント下降し、悪化傾向(-6.5%)に転じ、人材不足は前回は6.8ポイント上昇し、改善傾向(3.2%)となった。設備投資は40.7%の先となり、前回は16.7ポイントの増加となっている。

■経営上の問題点

「同業者競争の激化」が最も多く12社。続いて「売上停滞・減少」が11社で次点。「在庫調整」は9社と前回に比べて倍以上の企業が問題点としている。業況が明るくならない状況の中、在庫調整による経費の削減・収益向上に取り組む姿勢が伺える。

■当面の対策

依然として「販路拡大」が最も多く16社。次点で「資金繰り安定」11社、「人材確保」9社と続く。「料金調整」が7社「仕入れ価格調整」が6社と続き、販路を拡大しようとする攻めの姿勢と今まではあまり挙げられなかった価格帯を調整する動きがみられた。

■特別調査	「人材過不足感と人材戦略」および、今後3ヶ月(7-9月)の業績見込み
人手の過不足状況	「適正」23社、「やや不足」4社、「不足」2社
団塊世代引退への影響対応	「対応はとらない」10社、「中途・経験者採用」9社、「技能継承に注力」6社、「新卒採用」「定年延長・再雇用」各々3社
採用したい人材	「営業・販売」22社、「企画・管理」4社、「財務・経理」「職能・技能は問わない」各々2社 「研究・開発」1社
業績(7-9月見込み)	「やや良い」3社、「普通」22社、「やや悪い」5社、「悪い」1社
売上額(7-9月見込み)	「やや良い」6社、「普通」19社、「やや悪い」5社、「悪い」1社
収益(7-9月見込み)	「やや良い」4社、「普通」21社、「やや悪い」5社、「悪い」1社

依然として低調な個人消費が続いており、業況・収益DIともに悪化傾向から抜け出せない状況にあります。消費動向が軟調な中、依然として激しい同業者間競争となっておりますが、料金調整や仕入れ価格の見直しといった対策にも注力されるようになりました。業績・売上・収益見込みについても、大半の企業が「普通」と回答しておりますが、「やや良い」と回答した企業が前回より減少、「やや悪い」「悪い」と回答した企業が増加し、今後も低調な業況が続いていくことを示唆しております。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
28.6%	14.3%	-14.3%	21.4%	14.3%	-7.1%	0.0%	7.1%	7.1%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
50.0%	28.6%	-21.4%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
0.0%	-14.3%	-14.3%	-7.1%	0.0%	7.1%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
71.4%	71.4%	0.0%	7.1%	35.7%	28.6%			

■概況 ※()内はDI値

建設業全体の業況判断DIは前回は14.3ポイントと下降したものの、依然として良化傾向(14.3%)を継続している。売上金額についても前回は7.1ポイント下降したものの、良化傾向(14.3%)を維持。受注残高については、前回は14.3ポイント上昇して、良化傾向(14.3%)に転じた。

資金繰りは前回は21.4ポイントと大幅に下降したものの、良化傾向(28.6%)を維持。収益については前回は7.1ポイント上昇し、良化傾向(7.1%)に転じた。

借入によって資金調達を行った先は71.4%で前回調査時と変わらず。

前年同期比売上は前回は14.3ポイント上昇し、良化傾向(14.3%)に転じた。同収益についても前回は14.3ポイント上昇し、良化傾向(14.3%)に転じた。残業時間は前回は14.3ポイント悪化し、悪化傾向(-14.3%)となった。人材不足については前回は7.1ポイント上昇し、横ばい状態となった。

なお、設備投資を行った先は35.7%となっており、前回は28.6ポイント増加した。

■経営上の問題点

「同業者競争の激化」が7社と最も多く、次点で「人手不足」が6社、「原材料高」「利益幅の縮小」「経費の増加」が各々4社と続いた。経費節減に加え人手不足解消に向けた人件費の増加についても、問題点として挙げられる。

■当面の対策

「人材確保」が最も多く6社。続いて「経費節減」「技術力・営業力強化」が次点で各々5社、「情報力の強化」「販路拡大」が各々4社と続く。

■特別調査	「人材過不足感と人材戦略」および、今後3ヶ月(7-9月)の業績見込み
人手の過不足状況	「適正」8社、「やや不足」4社
回塊世代引退への影響対応	「中途・経験者採用」5社、「定年延長・再雇用」4社、「技能継承に注力」2社、「新卒採用」1社
採用したい人材	「営業・販売」7社、「その他」6社、「企画・管理」2社
業績(7-9月見込み)	「良い」1社、「やや良い」2社、「普通」8社、「やや悪い」3社
売上額(7-9月見込み)	「良い」1社、「やや良い」1社、「普通」9社、「やや悪い」3社
収益(7-9月見込み)	「良い」1社、「やや良い」2社、「普通」9社、「やや悪い」2社

受注残高と施行高DIは好調に転じましたが、業況・売上額ともに良化傾向を継続しているものの、変化幅を下方に進めました。資材費の高騰が顕著に目だっているものの、施工高の増加から収益については良化傾向に転じました。常態化している同業者競争の激化に対する対応策もさることながら、利益幅の減少への対策として経費節減が経営施策として挙げられ、収益面において「入」と「出」両面が強く意識されるようになっております。7~9月の業績・売上額・収益の各見込みでは全社が「普通」か「やや良い」が大多数としながらも、「やや悪化」と回答した企業が増加し、軟調に推移する可能性を示唆しております。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
50.0%	55.6%	5.6%	50.0%	44.4%	-5.6%	75.0%	55.6%	-19.4%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
12.5%	22.2%	9.7%	50.0%	44.4%	-5.6%	62.5%	44.4%	-18.1%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
0.0%	11.1%	11.1%	-12.5%	-11.1%	1.4%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
57.1%	66.7%	9.6%	57.1%	66.7%	9.6%			

■概況 ※()内はDI値

運輸業全体の業況判断DIは前回比5.6ポイント上昇し、良化傾向(55.6%)を継続している。売上金額については、前回比5.6ポイント下降したものの、依然として増加傾向(44.4%)を継続している。燃料価格は前回比11.1ポイント上昇し良化傾向(11.1%)に転じた。一方、収益面については前回比19.4ポイント下降したものの、良化傾向(55.6%)を継続している。資金繰りは前回比9.7ポイント増加し、良化傾向(22.2%)を継続している。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の66.7%であり、前回比9.6ポイント増加した。

前年同期比売上は前回比5.6ポイント下降したものの、増加傾向(44.4%)を継続。同収益も同様に、前回比18.1ポイント下降したものの、増加傾向(44.4%)を継続している。残業時間は前回比11.1ポイント上昇し、改善傾向(11.1%)となった。

また人材不足は前回比1.4ポイント上昇したものの、悪化傾向(-11.1%)を継続しており、慢性的な人材不足が依然として続いている。なお、設備投資を行った先は66.7%となり前回比9.6ポイント増加となった。

■経営上の問題点

「人手不足」が最も多く6社。続いて「同業者競争の激化」が次点で4社。人手不足に伴う人件費の増加と低稼働率による収益確保の難しさが課題となっている。

■当面の対策

「社員教育」が最も多く7社、続いて「人材確保」が5社。「販路拡大」「経費節減」が各々3社と続いている。社員教育の徹底による他社との差別化を図る動きがみられる。

■特別調査	「人材過不足感と人材戦略」および、今後3ヶ月(7-9月)の業績見込み
人手の過不足状況	「適正」3社、「やや不足」4社、「不足」2社
団塊世代引退への影響対応	「中途・経験者採用」5社、「新卒採用」2社、「定年延長・再雇用」1社
採用したい人材	「営業・販売」5社、「職能・技能は問わない」2社、 「財務・経理」「企画・管理」各々1社
業績(7-9月見込み)	「良い」2社、「やや良い」1社、「普通」5社、「やや悪い」1社
売上額(7-9月見込み)	「良い」2社、「やや良い」1社、「普通」5社、「やや悪い」1社
収益(7-9月見込み)	「良い」2社、「普通」6社、「やや悪い」1社

大幅に上昇した業況は依然として良化傾向を続伸しております。しかしながら、売上・収益については良化傾向を継続しつつも、若干ながら変化幅を下方へと進めております。燃料価格が安定してきたこともありコスト削減効果はあるものの、慢性的な人手不足は稼働率の低さを生み出し、収益機会の向上の足かせとなっております。今後の業績・売上額・収益見込みについては、外的要因に影響を受ける業種であることから、先行きを楽観視する見方は少なく、現状を継続していくものと見込まれます。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
45.5%	18.2%	-27.3%	9.1%	9.1%	0.0%	18.2%	27.3%	9.1%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
18.2%	27.3%	9.1%	9.1%	54.5%	45.4%	18.2%	54.5%	36.3%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
0.0%	9.1%	9.1%	27.3%	-18.2%	-45.5%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
80.0%	90.0%	10.0%	60.0%	40.0%	-20.0%			

■概況 ※()内はDI値

医療・福祉分野の業況判断DIは前回は27.3ポイント大幅に下降したものの、良化傾向(18.2%)を継続。売上金額は前回調査時と変わらず、依然として増加傾向(9.1%)を維持している。通院者数についても前回調査時と変わらず、良化傾向(18.2%)を維持し、ベッド稼働については前回比9.1ポイント上昇し、良化傾向(36.4%)を継続した。一方で、収益についても前回比9.1ポイント上昇し、依然として良化傾向(27.3%)を維持した。また、資金繰りについても前回比9.1ポイント上昇し、良化傾向(27.3%)を継続した。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の90.0%であり、前回比10ポイント増加している。

前年同期比売上は前回比45.4ポイントと大幅に上昇し、良化傾向(54.5%)を継続している。同収益については、前回比36.3ポイント大幅に増加し、良化傾向(54.5%)を継続した。残業時間は前回比9.1ポイント上昇し、改善傾向(9.1%)になった。人材面では、前回比45.5ポイント大幅に下降し、不足傾向(-18.2%)に転じた。加えて40.0%の先で設備投資を行っており、前回比20ポイント減少した。

■経営上の問題点

「人手不足」が最も多く5社。次点で「人件費の増加」が3社。前は挙げられなかった「売上停滞・減少」「商圏人口の減少」が各々2社となっており、慢性的な「人手不足」に加え、伸び悩む売上への問題点として挙げられた。

■当面の対策

前回トップだった「人材確保」をぬき「経費節減」と「社員教育」が各々5社でトップ。「人材確保」は4社で次点となり、優秀な人材確保による収益向上と経費節減による収益改善の両面での取組みが課題となっている。

■特別調査	「人材過不足感と人材戦略」および、今後3ヶ月(7-9月)の業績見込み
人手の過不足状況	「適正」3社、「やや不足」8社
団塊世代引退への影響対応	「中途・経験者採用」4社、「定年延長・再雇用」3社、「新卒採用」2社
採用したい人材	「その他」9社、「営業・販売」「財務・経理」「企画・管理」が各々2社
業績(7-9月見込み)	「やや良い」2社、「普通」9社
売上額(7-9月見込み)	「やや良い」2社、「普通」9社
収益(7-9月見込み)	「やや良い」3社、「普通」8社

前回大幅に上昇した業況は変化幅を下方に向けたものの、依然として良化傾向を継続しております。通院者数は前回と同様であったが、設備稼働は良化幅を伸張し、それに伴い収益も良化傾向を続伸しております。しかしながら、人材不足については大幅に悪化傾向を示しており、安定した人材供給の実現なくしては稼働率のさらなる飛躍も難しく、堅調な業況ながらも大きな課題が残る結果となっております。7~9月の業績・売上額・収益の各見込みでは全社が「普通」か「やや良い」としており、現状を維持していくものと想定しております。